

I. 卷頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009』を刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』と『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』という、二種類の報告書を刊行しています。

施設整備などに伴う記録保存のための本調査については、その発掘調査報告書を、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』（以下『調査報告』と略記）というシリーズ名で、各調査ごと刊行しています。これらの発掘調査報告書については、整理作業に時間を要する場合も多く、調査実施年度から数年後の刊行となることもあります。そのため、埋蔵文化財調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のために、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』（以下『年次報告』と略記）という形で、年度ごとの事業概要を毎年報告しています。

以前は、『東北大学埋蔵文化財調査年報』という形で、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきました。2007年度に実施した事業から、事業概要の報告と、発掘調査の報告を分離し、『調査報告』と『年次報告』として刊行しています。

『年次報告』は、調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のため、翌年度の早い時期に刊行する体制についていく予定です。また、調査室の事業について、より広くご理解いただけるよう、わかり易いものにしていきたいと考えております。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2009年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の調査室が実施した事業について概要をとりまとめて、報告いたします。2009年度は、川内北地区の厚生会館増改築の付帯施設工事に伴う調査に加えて、富沢地区において2ヶ所の調査を実施しました。富沢地区で実施した芦ノ口遺跡第7次調査では、粘土採掘坑が多数発見されました。芦ノ口遺跡では、これまでにも複数の時期の粘土採掘坑が発見されていました。今回の調査によって、粘土採掘坑の分布範囲が大きく広がることが確認されました。詳細な報告は『調査報告3』で行うこととなります。今後重要な資料となるものと考えております。また、2007年度まで調査を実施していた、地下鉄東西線機能補償関係の調査で出土した遺物の整理作業も、引き続き進めています。

これら事業の実施にあたっては、学内外の関係機関や関係者の多大なご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香